

SDSN「持続可能な開発報告書 2026」へのコメント

2026 年 6 月 30 日

SDGs 市民社会ネットワーク

大橋正明(共同代表理事)

例年通り国連系の民間研究組織「国連持続可能な開発ソリューション・ネットワーク (SDSN)」が、世界各国の SDGs の進捗状況を評価した 2026 年 SDGs 報告書 (Sustainable Development Report 2026) を 6 月 23 日に発表した。以下はその報告書に対する、一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク(以下、SDGs ジャパン)としてのコメントと分析である。

1. 主要メディアによる報道：平和なければ SDGs 達成は困難

この発表に対して今年、まず日本経済新聞(下田敏編集委員)がその日の朝に「世界の貧困、増加の勢い SDGs 息切れ『30 年目標』達成ゼロも」という比較的長い記事で、世界全体での SDGs の目標達成の可能性に焦点を当てて、主に以下の点を訴えた。

1. SDGs の 17 の目標のどれも、2030 年までに達成できそうもない
2. 世界の貧困は、削減の停滞から増加に転じる恐れがある
3. SDGs は平和が前提だが、最近の紛争の増加と援助の減少で、目標 2 の飢餓は逆に SDGs が始まった 2016 年に比べて約 2.5 倍増加した
4. こうした結果、目標の下にある 169 のターゲットで見ると、軌道に乗っているのは僅か 16.5%、65%は限定的な改善、後退しているのが 16.5%という厳しい状態だ

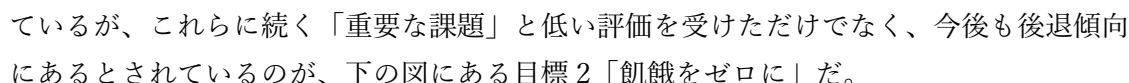
同日夕方には、朝日新聞(北郷美由紀編集委員)が「SDGs 進捗、日本 20 位に後退『達成済み』目標ゼロに」という、主に日本の SDGs 達成に着目した記事が掲載された。下は、この記事の要点を筆者なりにまとめたものだ。

- 1) SDGs 達成に向けた進捗の 1 位は 6 年間連続でフィンランド、続く 2 位・3 位も昨年に続いてスウェーデンとデンマークでどれも北欧諸国。一方日本の順位は 20 位で、2017 年の過去最高 11 位から下がったまま低迷が続き、ここ数年はこの順位前後が続いているが、それでも欧州以外では最上位国。
- 2) 日本の SDGs 目標達成が最低評価なのは、日本の根深いジェンダー差別と環境対策の遅れを反映して、7 年連続で目標 5「ジェンダー平等」、目標 13「気候変動対策」、目標 14「海の環境保全」、目標 15「陸の環境保全」の 4 つ。

これらの 2 つの記事がともに、SDGs 実現には平和が前提であることを強調している

2. 日本の評価が低い飢餓問題の背景

SDG Dashboard and Trends 図：2026年報告書の日本のSDGsのダッシュボード(計器盤)とトレンド(傾向)



なおこの自国の食糧消費の内容が世界の飢餓に及ぼす影響は、国連が定めた公式のSDGs 目標2の指標には含まれていない、SDSN 報告書独自の指標である。国連の飢餓に関する指標は4つあるが、それらは「食料不安の蔓延度」を除くとどれも栄養状態に関するものである。一国の状況が世界に及ぼす負荷を指標にしているという意味で、SDSNとその報告書の視野の広さを示していると言える。

SDGs ジャパンが最も重視しているのは「誰も取り残さない」という理念である。それ

ゆえ今回の報告書においては、通常注目されない進捗最下位国のデータを、過去のそれらと比較して詳しく分析したところ、重大な問題が明らかになった。

右の表は、今年と過去2年分の報告書に示された各国のSDGs進捗の点数を示したものだ。そうすると169カ国(地域を含む)の最下位10カ国の進捗はマイナスであり、それがプラスの最上位10カ国との間の格差が大きく広がっているのだ。

表：26年のSDGsの順位と点数及び25年・24年との点数の比較

26年の 順位	国名	26年の 点数	26年と25 年の点差	25年の 点数	26年と24 年の点差	24年の 点数
1	フィンランド	87.4	0.4	87.0	1.0	86.4
2	スウェーデン	86.3	0.6	85.7	0.6	85.7
3	デンマーク	85.7	0.4	85.3	0.7	85.0
4	ノルウェー	84.1	1.4	82.7	1.9	82.2
5	ドイツ	84.0	0.3	83.7	0.6	83.4
6	オーストリア	83.9	0.9	83.0	1.4	82.5
7	フランス	83.4	0.3	83.1	0.6	82.8
8	英国	82.5	0.6	81.9	0.3	82.2
9	アイスランド	82.3	1.5	80.8	2.8	79.5
10	チェコ	82.2	0.3	81.9	0.9	81.3
20	日本	81.0	0.3	80.7	1.5	79.5
160	ニジェール	49.6	-0.4	50.0	-0.3	49.9
161	アフガニスタン	48.8	-0.3	49.1	0.6	48.2
162	エリトリア	48.7	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
163	コンゴ民主	48.3	0.1	48.2	-0.4	48.7
164	イエメン	47.8	0.1	47.7	0.9	46.9
165	スーダン	46.2	-2.9	49.1	-3.7	49.9
166	ソマリア	46.2	0.1	46.1	0.8	45.4
167	チャド	43.9	-2.1	46.0	-1.2	45.1
168	中央アフリカ	46.3	1.1	45.2	2.1	44.2
169	南スーダン	39.9	-1.7	41.6	-0.2	40.1

出典と作成：SDSNの隔年の報告書のデータから筆者

表の最上位10カ国（黄色）と日本の2026年の点数は、前年及び前々年と比較してどこもプラスで順調に増加している。この10カ国の1年間の進捗平均は1年間で0.67点、2年間で1.08点である。対照的に最下位10カ国(青色)の内比較できる9カ国中5カ国が赤の数字、つまりマイナスとなっており、この9カ国の進捗平均は1年間で-0.57、2年間で-0.16である。つまりSDGsの進捗において、最上位国と最下位国の格差が拡大しつつあること、特に最下位国では昨2025年からの1年間の後退が大きいことが明瞭に示唆されている。この報告書はSDGsの目標10「不平等を是正する」は世界全体では停滞しているとしているが、最下位の国々は取り残されており、不公平は悪化して見える！

これら最下位10カ国の国名を見ると、全部が中東とサハラ以南アフリカに位置し、これら国の大半が今も紛争に苦しんでいることに気が付く。冒頭に挙げた2つの新聞記事が、「SDGs実現には平和が前提」と指摘した通りになっている。

戦後に築かれてきた国際秩序が、一部の大国によって無視・破壊され、開発協力のための資金も大幅削減される一方で、軍事費は大きく増えている。私たちは世界各地の市民と一緒に、「こんな非道は許されない」こと、そして「あらゆる国や地域、そしてあらゆる人々を取り残さず、2030年までにSDGsを必ず達成する」ことを、一層強く訴えていく必

要がある。